

伊豆市監査委員 告示第5号

地方自治法第199条第4項の規定に基づき定期監査を実施したので、同条第9項の規定により、監査の結果を次のとおり公表する。

令和2年3月27日

伊豆市監査委員 渡邊 光由  
伊豆市監査委員 杉山 誠



記

1. 監査の期日 令和2年1月16日(木)

2. 監査の対象 教育部 学校教育課、社会教育課、図書館

3. 監査の方法

提出を求めた監査資料等に基づき、各担当課の説明を受けた後、事情聴取及び関係書類の審査を行った。

4. 監査の結果

監査を実施した範囲においては、関係法令等に準拠して執行されており、おおむね適正に処理されているものと認めた。

5. 監査の概要、意見

対象部課の監査結果の概要及び意見は、次のとおりである。

教育部

(1) 学校教育課

- ① 放課後児童クラブは、市内8か所の施設で運営されている。全体的に増加傾向にあるが、修善寺南小学校は、希望者が多く定員超過のため、第2放課後児童クラブ「あゆっこ」を開設、また修善寺小学校放課後児童クラブ「だるまっこクラブ」も開設した。夏休みのような長期休暇の在籍数は、定員に迫る人数となっている。今後利用者の増加に伴う長期的な課題として、定員超過による放課後児童クラブの拡大には、修善寺南小学校のような新たな場所の確保も課題として検討していただきたい。また放課後児童クラブの委託先がそれぞれ違うため、定期的な情報交換を行い、地区による偏りが起きぬようにしていただきたい。土肥地区では、中学生の放課後児童クラブへの関与を再度検討

願います。

- ② 学校施設改修によるエアコンの設置については、既に設置済みの土肥小中一貫校を除き、8月までに市内小中学校 78 教室の設置を完了している。設置に際しては機種を統一化し、機器の異常時の改修時に対応をしやすくし、新中学校への転用等も考慮しているとのこと。また、給水排水施設においては、老朽化に伴う修繕等や雨漏りがあり、特に台風時にはその被害が大きく現れてきていることが、特質される。
- ③ 就学援助費の認定状況については、次のとおりの認定人数を確認した。就学者全体の 8% が認定を受けている状況である。 (単位:人)

学校 \ 年度	平成 30 年度	令和元年度	対前年度
小学校(うち要保護数)	75 (8)	77 (8)	2 (0)
中学校(うち要保護数)	50 (1)	48 (2)	△2 (1)
義務教育(うち要保護数)	11 (0)	11 (0)	0 (0)
合 計	136 (9)	136 (10)	0 (1)

今後も就学児童生徒の経済的理由による就学困難者の把握に努め、認定に漏れのないよう対応願います。

- ④ 学校支援員の活動状況では、次のような雇用状況である。 (単位:人)

学校 \ 年度	平成 30 年度	令和元年度	対前年度
小学校	25	24	△1
中学校	7	9	2
義務教育学校	4	4	0
合 計	36	37	1

小学校の支援員には、特別支援、発達障害や学習が劣る児童の補助業務のほか、パソコン操作、ネット通信でのモラル指導、各学校のホームページ更新などを行う情報支援員と音楽学習を支援する音楽支援員がいることを確認した。

- ⑤ 土肥小中一貫校の運営状況について、令和2年1月1日現在の生徒数は次のとおりである。

(単位:人)

学部	学年組 (特別教室含む)	令和元年度	令和2年度
初等部	1年	12	14
	2年	8	12
	3年	10	9
	4年	23	10
中等部	5年	13	23
	6年	15	12
	7年	11	16
高等部	8年	19	12
	9年	20	18
合 計		131	126

単に学校教育だけの範疇を超え、ふるさと大切にする心を育てることに重点をおき、上級生を下級生が憧れる状況を土肥の伝統にすること等に取り組んでいる。また、上級生は

リーダーとして自覚が芽生え、下級生は規範意識や思いやりが育ち、良い影響が表れてきているとのこと。土肥を大切にする気持ち、活性化させるためのアイデアに驚いたという評価委員の意見も頂いている。またPTAや地域団体との連携もとれており、総会や授業参観会にはほとんど参加できているとのこと。確かな学力の定着を図るため、個別指導、ICT機器の活用、電子黒板の活用をしている。過疎化による小中一貫校の教育成果は、全国的にも注目されており、視察等の希望も多いことから、伊豆市ブランド力向上の一助にもなる。長期的戦略に基づき、次なるステップを常に考え、地域に愛され、地域密着型の学校になることを希望します。

- ⑥ 各委員・相談員の活動について、スクールソーシャルワーカー（SSW）は、児童虐待、養育ネグレクト等、児童の就学に影響する家庭環境等の改善を求めて支援ネットワークを構築し支援する福祉の専門員として3名を任用している。特別支援巡回相談員は、学校からの要請により障害の程度・状況を客観的に把握するための検査（WISC検査）を実施している。学習支援教室指導員は、現在2人で毎週、城山活動支援センターを拠点に不登校の児童生徒に学習の機会（午前中2時間）を提供し、学力の補充や学校生活復帰への指導を行っている。特別支援コーディネーター1名は、発達障害や知的障害等を抱える児童生徒の指導、相談に対応し、学校巡回、各校のケース会議に参加している。いじめ問題対策連絡協議会（委員17名）・いじめ問題調査審議会（5名）は、いじめ防止対策法に基づきいじめ問題の把握、施策の推進、分析等を行っていることを確認した。就学支援委員会は、障害のある児童生徒について、適切に就学に関する支援を行うための審議機関として15名の委員で組織し、就学支援に必要な諸問題の調査及び研究も行っている。
- ⑦ 市内いじめの重篤なケースの報告はないが、軽微なものについてもカウントするようになり、特に冷やかしのいじめが多くなっている。またインターネットやSNSによるいじめも増加しており、人権教育や相手を思いやる心を育てる指導を継続していただきたい。家庭の状況については、民生児童委員、こども課、社会福祉協議会、地域などで総合して解決の道を模索して頂きたい。
- ⑧ 教職員の健康管理状況では、平成30年度の定期健康診断結果について次のような報告を受けた。

(単位:人)

区分	受診対象者	受診者	受診率(%)	事後措置				
				勤務制限者等	要医療者	要観察者	異常なし	不明
一般健康診断	66	66	100.0		4	6	52	4
指定年齢診断	23	23	100.0		4	12	6	1
人間ドック	83	83	100.0	4	19	42	16	2
合計	172	172	100.0	4	27	60	74	7

- ⑨ 通学距離が2キロメートルを超える小中学生の保護者に対して通学補助金を交付している。本年度の補助対象者は小学生保護者407名、中学生保護者360名、義務教育学校

(小) 31名、義務教育学校(中) 17名、で、近隣他市町にはない手厚い支援制度である。

(2) 社会教育課

① 文学のふるさと事業は、湯ヶ島ゆかりの井上靖の作品の感想文、風景画のコンクールやイベントを開催し、地域の潜在的な魅力を再認識するとともに、文学の郷「湯ヶ島」を構築すべく、地域活性化に文学を活用した支援を行っている。本年度のあすなろ忌の開催では、桜美林大学 勝呂奏教授によるトークセッションを予定している。文学の郷構想は、10年後の湯ヶ島地区のビジョンを総合政策部、建設部、産業部、天城湯ヶ島支所と地域住民と連携して事業を推進している。文学の郷づくり活動支援業務委託として10,000千円を計上しており、湯ヶ島文学に関する冊子の政策と配布、文豪カフェ(120名参加)やあすなろカフェ(204名参加)の実施支援等を行っている。文学の郷構想は長年のメイン政策であり、小中の学校教育の場と共に、住民においても気軽に参画できるイベントを通じ意識を高め、伊豆市のブランド力向上の真のツールとなることを期待します。

② 社会体育振興事業は、誰でも気軽に参加できるスポーツ教室、地区への出前スポーツ教室の開催、体育協会やスポーツ少年団への支援、静岡県市町対抗駅伝競走大会への出場への支援を行っている。またみんなの運動会等のイベント、市駅伝大会を実施している。スポーツ推進委員の事業では、運動能力向上委員会にてボール投げ、跳箱、縄跳び、鉄棒など子供の運動支援は保護者からも良い評価をいただいている。体育協会に委託するスポーツ事業では、男女バレーボール、地区対抗ソフトボール大会等ある中で、女子バレーボール大会への参加チームが減少し、今年5チームとなっており、参加資格等の見直しが必要である。また今年度の地区対抗ソフトボール大会は、台風の影響で3チームの参加しかなかったとのこと。市民向けのスポーツメニューに自転車やノルディックウォーキングなど、子供から高齢者まで参加できるスポーツ教室等の採用も期待します。

社会生活の変化と共に地域で行うスポーツ競技に対する意識も大きく変わっているので、今までを踏襲するだけではなく、市民が真に求めているものを考察し、新しい感覚で立案企画し運営することを期待します。

③ 教育委員会が所管する指定管理者の指定管理施設は、修善寺体育館・修善寺グラウンド、狩野川記念公園、狩野ドーム、中伊豆室内温水プールの4施設となる。概ね管理運営は良好であるが、修善寺体育館が老朽化により閉館となったため、修善寺グラウンドの指定管理を廃止し、管理委託することとなった。

指定管理施設	指定管理者	指定管理料	支払方法
修善寺体育館・修善寺グラウンド	伊豆市体育協会	10,945千円/年	月払い
狩野川記念公園	(株)サンアメニティ	10,850千円/年	
狩野ドーム・狩野グラウンド	伊豆市体育協会	9,404千円/年	
中伊豆室内	(有)伊豆スイムサポート	18,000千円/年	

- ④ 美術館建設推進事業では、次のとおり、事業経緯の説明を受けた。本年度は、美術館構想検討業務委託費 11,000 千円による候補地選定に関する敷地調査と造成概要計画を作成し、それをもとに建設推進委員会での審議を行う予定であったが、調査については来年度行うこととなった。市民をはじめ、多くの人が入館する伊豆市の誇れる財産としての美術館を目指すのであるが、事業として美術館周辺も入れた事業性評価を含め検討されるよう希望します。

【建設準備委員会】

- (1) 平成 26 年度 建設準備委員会 1 回開催 (委員 6 人)
- (2) 平成 27 年度 建設準備委員会 2 回開催、市民フォーラム開催
- (3) 平成 28 年度 建設準備委員会 5 回開催、地区説明会 3 地区
- (4) 平成 29 年 1 月 17 日「伊豆市美術館基本構想答申書」提出
- (5) 平成 29 年 2 月 教育委員会で答申を報告、市HPに公開し意見を聴取

【建設推進委員会】

- (6) 平成 29 年度 建設推進委員会 2 回開催 (委員 9 人)
- (7) 平成 30 年度 建設推進委員会 7 回開催 建設候補地 3 箇所に絞り込み
- (8) 令和元年度 建設推進委員会 3 回開催

美術館建設に向けた委員意見交換、美術館視察

- ⑤ 学校・家庭・地域連携協力推進事業は、学校・家庭・地域が連携・協働し、子どもたちを育む環境づくりを推進するため、子育て世代の親を積極的に支援することを目的としている。日ごろからストレスを溜めている母親や父親の悩みに少しでも寄り添い和らげるよう家庭教育講座を 10 回開催し、56 人の参加があったとのこと。また家庭教育支援員の質の強化を図るため、県主催の研修に参加させている。この事業により、諸問題に対応できる体制を整え、市内では親による児童虐待や子育てうつ、DV等の事件が起らないよう希望します。

(2) 社会教育課 図書館

- ① 図書館（市内合計）の来館者数及び図書の貸出し状況（4～12 月分比較）は、次のとおりとなっている。

項 目	来館者数	貸出冊数
令和元年度	64,899 人	103,470 冊
平成 30 年度	64,210 人	104,641 冊
増 減	689 人	△1,171 冊
前 年 比	101.1%	98.9%

天城図書館が新たに開館し、また各種講座の開催により、市内の各図書館も充実してきている。子どもからお年寄りまで気兼ねなく来館し、たくさんの本を借りていく。市内すべての図書館でそうなることを期待します。

- ② 図書館講座・教室では、本年度開催の 36 講座に参加人数 2,758 人(11 月末現在)を数える。出前おはなし会には、子ども向けに 928 人、大人向けに 225 人、合計 1,153 人の参加があった。昨年度から赤ちゃんや小さい子ども連れの親子でも図書館の利用がしやすい「ベビータイム」を毎週水曜日に設定し、視聴覚室を開放することで、利用者(38 回 590 人)の増加に繋がっているとの説明を受けた。新たな図書館利用者の開拓に、市民の声や新規講座の提案を受け付けることを更にPRし、図書館講座の充実を図ることに

より更なる利用者の増加を期待します。まちづくりの拠点として、交流、語り合い、知の活力の源となる元気な図書館施設となる事を希望します。

- ③ ブックスタート事業は、赤ちゃんがいる家庭に図書館から絵本を贈り、絵本を通じて家族が心触れ合う時間をもってもらい、読書や読み聞かせの大切さを知ってもらうことを目的としている。配布は7ヶ月児健康相談日の会場で、図書館職員から保護者と赤ちゃんに絵本の読み聞かせの大切さを伝えながら直接手渡している。配布状況は次のとおりとなる。

年 度	対象者	配布人数	配布率
平成 29 年度	123 人	107 人	87.0%
平成 30 年度	118 人	107 人	90.7%
令和元年度（1月まで）	117 人	103 人	88.0%

相談日に参加できなかった親子には、最寄りの図書館で配布物を受け取れるとのこと。本の大切さを親子ともども感じてもらい、子育ての一貫として図書館の利用を考える機会を増やしていただくよう希望します。

- ④ 旧天城図書館が「天城湯ヶ島コミュニティ複合施設 市民活動センター」（旧湯ヶ島小学校）の2階へ移転し、平成 31 年 4 月 1 日から開館した。複合施設である市民活動センターには、1階「湯ヶ島地区地域づくり協議会」、2階「天城図書」・「井上靖資料室」、3階「ジオ展示室」・「静大研究室」がある。2階部分の「天城図書」と「井上靖資料室」も複合した一体的な施設となっているため、図書館開館時には資料室を自由に見学することができる。エレベーターも設置されており、来館しやすくなっている。市民の憩いの場所として活用できるようになっており、多くの方に利用されることを希望します。